

EDITORS' CHOICE

英語はもっと句動詞で話そう

句動詞を駆使して教科書英語からの脱却をめざす！

本書の特長

- 1** 一語動詞⇔句動詞の使い分けを、コーパスデータとわかりやすい例文を駆使して解説！
- 2** 5億語の英語コーパス COCA（米語）、BNC（英国語）の頻度上位 150 句動詞をすべて収録のうえ、それをアイコンでわかりやすく表示！
- 3** 一語動詞⇒句動詞への言い換えと、句動詞の使い分けを左右する不変化詞（副詞・前置詞）のニュアンス解説が特長！

著者：日向 清人

判型：四六判

定価：1,760 円（本体価格：1,600 円）

ISBN：978-4-87615-273-5

発売日：2013 年 10 月 8 日

語研ホームページ：<https://www.goken-net.co.jp>

英語はもっと 句動詞で話そう

英米語データベース最頻出の**400**表現

日向清人

Kiyoto Hinata



formal

accompany
continue
discard
encounter
implement
mature
postpone
raise
submit
terminate



informal

go along with
hold on
throw out
run into
carry out
grow up
put back
bring up
turn in
break off

はじめに

動詞 take に副詞 off を組み合わせた take off は「離陸する」という意味です。動詞 go に前置詞 over を組み合わせた go over は「～をざっと見る、振り返る」という意味です。あるいは、break+down という字面から意味がわかりやすい break down（故障する）に対して、let+down という字面からは意味が読み取りにくい let down（～をがっかりさせる）という表現もあります。こうした動詞と副詞・前置詞の定型的組み合わせを本書では句動詞（phrasal verbs）と総称します。

句動詞は一筋縄でいかない学習項目ですが、英語を話したり、書いたりする場合には、本書で取り上げる程度の頻出句動詞はぜひとも会得する必要があります。実際、ケンブリッジ英検や IELTS でも出題の範囲内です。「英文に使われる動詞の3割以上を句動詞が占める」と言われるほど、句動詞は英語の語彙の重要部分を占めているからです。シェークスピアの全作品を通して5,000以上の句動詞が使われているぐらいで、「英語を英語らしく話す」ために不可欠と言えそうです。

また、海外TVドラマなどを見ているとわかりますが、句動詞は話し言葉で実によく使われるうえ、Eメールや雑誌・新聞の記事のようなインフォーマルな書き言葉でも頻出しますから、主要句動詞はしっかりおさえておかないと、いくら英語を勉強しても効果を実感できません。

さらに、コミュニケーションないし人間関係という視点から言えば、句動詞で言うのが普通なのに、いつも一語動詞で済ませようとする人は、時間や場所におかまいなく堅苦しい格好をして取り澄ましているかのような、奇異な感じを相手に与えます。

本書は、以上の具体的なニーズを踏まえて、アメリカ英語とイギリス英語両方の5億語を超えるコーパス（用例データベース）の研究からわかっている最頻出上位150句動詞とそのバリエーションを合わせた、およそ400の頻出句動詞を取り上げ、必要な句動詞を一語動詞と対照しながら、効率よく学べるよう工夫してあります。生きた英語の習得に活用してください。

2013年9月

日向清人

目次

はじめに 3

本書の特長 5

句動詞の発音 8

見出し語一覧リスト 12

英語はもっと句動詞で話そう

A	20	M	130
B	36	N	134
C	39	O	136
D	59	P	141
E	80	Q	151
F	99	R	152
G	108	S	184
H	111	T	207
I	113	U	214
J	123	V	219
K	124	W	220
L	126	Y	227

句動詞索引 230

句動詞索引 (副詞・前置詞別) 246

【装丁】 山田英春

【著者写真】 Photo by Yoshiaki Miura (The Japan Times)

1. 一語動詞⇔句動詞の言い換えが簡単にわかる

一語動詞⇔句動詞の言い換えがすぐに検索できるように、400の句動詞は対応する一語動詞のアルファベット順に配列してあります。受験英語で覚えた堅苦しい一語動詞を句動詞、つまり「普段着の英語」で言うにはどの表現を用いるべきかが、見出し語と例文を通じてすぐにわかります。逆に、巻末には句動詞から一語動詞を検索できる索引を用意し、TPOに合わせて改まった言い方をしたい場合にどういう一語動詞を使えばよいかかわかるようになっています。「たばこの火を消す」と言いたいとして、put out と言えばいいものを extinguish と言ったりするのは、芝居がかかっていて滑稽なだけでなく、教養をひけらかす結果となり、感じが悪いとの専門書の指摘があるぐらいで、状況に合わせて一語動詞と句動詞を言い換えられることは重要なスキルです。

なお、句動詞はインフォーマルとされてはいますが、だからと言って、アカデミックライティングや法律文書などの硬い実務文書で使われないというわけではありません。omit という一語動詞より leave out という句動詞のほうが、アカデミックライティングでは多く使われるというデータもあります。

2. 目的語が入る位置を明示している（分離 OK 型と分離 NG 型）

動詞本体と副詞・前置詞の間に何も入れられないタイプの句動詞（目的語をとらない自動詞型の句動詞と、このタイプに属する他動詞型の句動詞）と、目的語が初出か既出か、あるいは目的語が代名詞かどうかによって、動詞と副詞の間に目的語を入れられるかどうかが決まるタイプの句動詞を明確に示してあります。

例えば、「彼は急いでジャケットを着た」と言いたいとして、そのジャケットのことを聞き手が初めて耳にする場合であれば、

He **put on** his jacket in a hurry.

ですが、聞き手がどのジャケットの話かわかっている場合は、

He **put** his jacket **on** in a hurry.

というふうに、目的語の his jacket は動詞 put と副詞 on を分離してその間に、

つまり副詞の前に入れることができます。

これはつまり、分離 OK 型の句動詞では、副詞の位置は目的語の情報構造上の位置づけ次第ということです。「話をわかりやすくするためには、未知の事項より先に既知の事項から始めるべし」というコミュニケーション上の経験則に従い、目的語が既知の情報を表しているときは、副詞の前、つまり動詞と副詞の間に入れることができます。目的語が代名詞の場合は既知の情報であることが確実ですから、原則として動詞と副詞の間に入れます。

本書では、次のように表示しています。

自動詞型	 常に《let up》の形で使う。自動詞型なので、目的語はとらない。
自動詞型（他動詞用法もある）	 常に《slow down》の形で使う。この意味では自動詞型なので、目的語はとらない。
他動詞型（動詞＋前置詞）	 常に《go over＋名詞（句）》の形で使う。
他動詞型（動詞＋副詞）	 常に《get down＋名詞（句）》の形で使う。ただし、目的語が代名詞の場合は、例外的に《get＋代名詞＋down》の形が可能。
他動詞型（動詞＋副詞）	 目的語が初出の場合は《take in＋目的語》、目的語が既出の場合は《take＋目的語＋in》も可。目的語が代名詞の場合は必ず《take＋代名詞＋in》の形で使う。
他動詞型（動詞＋副詞＋前置詞）	 常に《go along with＋名詞（句）》の形で使う。


3. 句動詞の意味につながる副詞のニュアンスを解説している

動詞と組み合わせられている副詞のニュアンスを説明しました。句動詞の句動詞たるゆえんは、実は動詞よりも副詞のほうにあります。副詞に注意を払い、例えば get off での off の解説を読んだら、同じような off が使われている例を探すという作業を繰り返すことをお勧めします。これにより、メタファー（比喩）でのつながりがわかり、英語のセンスが飛躍的に向上するはずですが、そのために、副詞から句動詞を検索できる索引も巻末に用意してあります。

なお、put up with *sth* のように純然たる《動詞＋副詞》のセットに前置詞が組み合わせられている場合、「with は前置詞なので、その前に副詞（句）を

入れることができる」と説明している部分があります。これは **She puts up with my annoying demands.** (彼女はわたしの腹立たしくなるような要求を我慢してくれる) という表現を例に言えば, **always** のような一語副詞であれば, **She always puts up with my annoying demands.** のように動詞の前に入れることができますが, 同じ意味の副詞句である **all the time** だと動詞の前に入れることができず, **She puts up all the time with my annoying demands.** のように, 前置詞の前にそれを入れる「スロット」があることをお知らせするための説明です。

4. 5 億語の英米語データベース最頻出の 150 句動詞を明示している

世界最大のアメリカ英語データベース **Corpus of Contemporary American English** と, イギリス英語データベース **British National Corpus** (計 5 億語) での頻度上位 150 位までの句動詞はすべて収録しています。見出し語の前に  のアイコンで示し, 句動詞は大きい活字で表示しています。これらの最頻出句動詞を優先して学ぶことで, 学習効率が高まります。

5. 句動詞の強勢を表示している

見出し語の句動詞にはアクセント記号を付け, 強勢を置いて発音すべき語を明示しています。' が第一強勢 (もっとも強く発音する), , が第二強勢 (やや強く発音する) を示します。句動詞の発音の詳細については次の解説を参照してください。

句動詞を構成する動詞、副詞、前置詞のいずれを強く発音するかの判別方法は2つあります。ひとつは、1拍で一息に発音するのか、2拍で発音するかで見分ける方法です。もうひとつは、分離可能かどうかを基準に見極める方法です。本書の句動詞には強く発音する音節の直前に'という記号が入っていますから、以下のいずれに属するかを意識しながら学習すれば、慣れてくるに応じて、直感が働くようになるはずです。

1. 1拍か2拍かで区別する方法

1拍で発音する句動詞の場合、副詞・前置詞ではなく、動詞にアクセントを置きます。

You've got nothing to lose. **'GO for it.** (何も失うものがないじゃないか。行け)

2拍で発音する句動詞では、副詞・前置詞にアクセントを置きます。

Our flight **took 'OFF** at noon. (われわれのフライトは正午に離陸した)

なお、3単語から成る句動詞は《動詞+副詞+前置詞》の組み合わせですが、基本的には2拍目の副詞にアクセントを置きます。前置詞を強く発音するのは普通ではありません。

I always have to **put 'UP with** things. (いつだって、あれこれと我慢しなきゃならないことがある)

I always have to **put up 'WITH** things. は×。

2. 分離可能か否かで判別する方法

自動詞型（分離 NG）のときは、副詞にアクセントを置きます。

He **passed 'OUT** on the floor. (彼は床の上で気を失った)

他動詞型の分離 NG タイプでは、動詞にアクセントを置きます。

How could you **'FALL for** such scam? (なんだってあんな詐欺にひっかかるんだ)

他動詞型の分離 OK タイプでは、目的語が初出で分離しない場合は副詞・前置詞にアクセントを置きます。しかし、話し手が目的語の名詞を強調したい場合は、その名詞にアクセントを置くことがあります。

The teacher *passed* 'OUT the material. (その教師は資料を配布した)

The teacher *passed out* the MA'TERIAL.

目的語が既出のために分離する場合は（動詞でも副詞・前置詞でもなく）目的語である名詞にアクセントを置くのが一般的です。

The teacher *passed* the MA'TERIAL out.

目的語が代名詞のために分離する場合は不変化詞にアクセントを置きます。

The teacher *passed* them 'OUT. (その教師は資料を配布した)



見出し語一覧リスト

*は英米語データベース (COCA, BNC) の頻度上位 150 に含まれる最重要句動詞です。

■ A

- **abate** → let up 20
- **absorb** → take in* 20
- **accompany** → go along with* 21
- **accumulate** *debts* → run up *debts* 21
- **achieve stability** → settle down* 22
- **(get sb) acquitted** → get *sb* off* 22
- **advance** → go up* 23
→ move up* 23
- **age** → get on* 24
- **agree with** → go along with* 24
- **alienate** → put off* 25
- **alight** → get off* 25
- **align** → line up* 26
- **(be) announced** → go out* 26
- **appear** → come across as 27
→ show up* 27
- **apply** → put on* 28
- **approach** → come up* 28
- **(be) approved** → come through* 29
→ go through* 29
- **arise** → come up* 29
- **arrange** → lay out* 30
- **arrive** → get in* 30
→ show up* 31
→ turn up* 31
- **assemble** → put together 32
- **attend** → sit down to* 32
→ turn out for* 33
- **attract** → pull in 33
- **attribute *sth* to *sth*** →
put *sth* down to *sth** 34

□ **avoid** → wriggle out of 34

□ **awaken** → wake up* 35

■ B

- **become known** → get out* 36
- **block** → back up* 36
- **board** → get on* 37
- **bribe** → pay off* 37
- **burden** → weigh down 38

■ C

- **calculate** → work out* 39
- **(become) calm** → settle down* 39
- **calm *oneself*** → sort *oneself* out 40
- **cancel** → call off 40
- **capitulate** → give in* 41
- **cause** → bring about* 41
- **chatter** → carry on* 42
- **check** → go over* 42
- **choose** → go for 43
→ pick out* 43
- **claim** → make out* 44
- **close** → shut down* 44
- **collaborate with** → go in with* 45
- **collapse** → break down* 45
→ keel over 46
- **come** → come along* 46
- **communicate** → get across 47
→ pass on* 47
- **compensate for** → make up for* 48
- **complete** → fill out* 48
→ finish off 49
- **comprise** → make up* 49
- **compromise** → come together 50

- **confess** → own up 50
 - **confirm** → back up* 51
 - **consider** → allow for 51
 - **(be) conspicuous** → stand out* 52
 - **consume** → put away 52
 - **contact** → get through to* 53
 - **continue** → carry on with* 53
 - get on with* 54
 - go on* 54
 - hold on* 55
 - keep up* 55
 - **continue** *doing* → keep on *doing** 56
 - **contribute** → put in* 56
 - **convert** → come around* 57
 - **copy** → back up* 57
 - **(be) correct** → check out* 58
 - **curb** → hold down 58
- **D**
- **deceive** → take in* 59
 - **defend** → stand up for* 59
 - **delay** → put back* 60
 - **(be) delayed** → (be) held up* 60
 - **deliver** → come through* 61
 - hand over* 61
 - **depart** → move out* 62
 - **depress** → get *sb* down* 62
 - **descend** → get down* 62
 - **describe** → lay out* 63
 - **despise** → look down on* 63
 - **detach** → break off* 64
 - come off* 64
 - **detonate** → set off* 65
 - **develop** → build up* 65
 - come on* 66
 - **devote oneself to** → work at 66
 - **devour** → wolf down 67
 - **digest** → go down* 67
 - **disable** → shut down* 68
 - **discard** → throw out* 68
 - **discern** → make out* 69
 - **disconnect** → cut off* 69
 - **discontinue** → break off* 70
 - close down* 70
 - cut off* 71
 - **discover** → find out* 71
 - **dismantle** → take down* 72
 - **dismiss** → rule out* 72
 - write off 73
 - **dispose of** → get rid of 73
 - **disqualify** → rule out* 74
 - **(be) disseminated** → go around* 74
 - **dissolve** → break up* 75
 - **(be) distracted by** →
 - (be) hung up on* 75
 - **distribute** → give out* 76
 - send out* 76
 - **divide** → break up* 77
 - cut up 77
 - **don** → put on* 78
 - **downsize** → wind down 78
 - **draft** → draw up 79
 - **duplicate** → back up* 79
- **E**
- **eat all** → polish off 80



英語はもっと 句動詞で話そう


A

□ abate → let 'up

小降りになる，（雨や風が）弱まる

- ▶ If the rain doesn't **let up** (=abate), the dam could break.

雨が小降りにならないと、あのダムが決壊する可能性がある。

 **NG** 常に《**let up**》の形で使う。自動詞型なので、目的語はとらない。

- ◆ 「なる、そうなるに任せる」という意味の **let** と、悪天候が終わりを告げるときの **clear up** と同じく「終わる」というニュアンスの **up** との組み合わせ。




□ absorb → take 'in

～を理解する，（事実として）受け入れる

- ▶ We were told our son died in an accident, but we still can't **take it in** (=absorb it).

息子は事故死したと言われたが、まだ受け入れられずにいる。

 **OK** 目的語が初出の場合は《**take in** + 目的語

目的語が既出の場合は《**take** + 目的語 + **in**》も可。目的語が代名詞の場合は必ず《**take** + 代名詞 + **in**》の形で使う。

- ◆ 「中に」を意味する **in** と、You agree, I **take it**. (承知して下さったと理解しているのですが) で見られる、「理解する」という意味の動詞 **take** との組み合わせで、人の言うことを無批判に吸収しようとする **drink in** (～をうのみにする) に通ずるものがある。
- ◆ 同種表現に **figure out** (～を理解する、～がわかる) がある。We still cannot **figure out** what happened. だと、「一体全体何が起きたのかわからない」という意味だが、We still cannot **take in** what happened. は、何が起きたかはわかっているものの、ことの重大さに驚くあまり、それが事実

に思えないというニュアンス。



□ accompany → 'go along with

～に随行する，～に同行する

- ▶ There's a trade fair in Shanghai, and I'm going along with (=am accompanying) my boss.

上海で展示会があって，上司に同行することになっている。



常に《go along with + 名詞 (句)》の形で使う。

- ◆ 最後の with は前置詞。① with ではなく，along のほうを強く発音する，② with の前に，I'm going along *reluctantly* with my boss. (しぶしぶだが，わたしは上司に同行する) のように，副詞 (句) を入れることができる，③ 目的語が代名詞の場合は，I'm going along with *them*. のように，代名詞は with のうしろに入れる。
- ◆ 友だちをパーティーなどに「連れてくる」は bring along a friend, TV で流れている歌に合わせて「口ずさむ」は sing along with a song on TV. これらと同様，ここでの along も「いっしょに」というニュアンス。

□ accumulate *debts* → 'run 'up 'debts

借金を重ねる，負債を抱え込む

- ▶ The company **has run up** (=has accumulated) huge debts due to excessive investments.

同社は過剰投資のため巨額の負債を抱えている。



常に《run up + 名詞 (句)》の形で使う。ただし，目的語が代名詞の場合は，例外的に《run + 代名詞 + up》の形が可能。

- ◆ 何かを「使い切る」ときの use up と同じく，究極まで行った感じを強めている up。



□ achieve stability → **settle 'down**

落ち着く

- ▶ Some men don't want to get married and **settle down** (=achieve stability).

結婚して落ち着こうとしない男性もいる。



常に《**settle down**》の形で使う。この意味では自動詞型なので、目的語はとらない。

- ◆ ここでの down は「程度・レベルを下げる」ということで、活発に動いていた独身の人間が結婚して落ち着けば活動のレベルが「下がる」ことになる。



□ (get sb) acquitted → **get sb 'off**

～を無罪にする

- ▶ His lawyer, a top-notch trial lawyer, **got him off** (=got him acquitted).

依頼した、訴訟専門として一流クラスの弁護士が、彼の無罪を勝ち取った。



常に《**get + 名詞 (句) / 代名詞 + off**》の形で使う。

- ◆ The rain has eased off. (雨が小降りになってきた) での off は「程度が軽くなる」というニュアンスだが、ここでの off も、有罪という事態の深刻さと比べて「軽い」という意味。


150

□ advance → go 'up

上昇する

- ▶ **Stock prices are going up** (=are advancing) for sure, but **what goes up** (=advances) must come down.

たしかに株価は上昇しているけれど、上がるものは必ず下がるんだ。

 **NG** 常に《go up》の形で使う。自動詞型なので、目的語はとらない。

- ◆ 字面どおり、「向かう」(go) と「上へ」という意味の up との組み合わせ。
- ◆ こういった「上昇」の逆は go down で表し、What goes down must come up. (下がるものはいずれ上がる) と言ったりする。

150

□ advance → move 'up

昇進する

- ▶ I've been a clerk for over three years. Isn't it about time that I **moved up** (=advanced), say, to the position of sales manager?

ただの事務員でもう3年以上だ。昇進、例えば、営業課長にしてもらってもいい頃じゃないのかな。

 **NG** 常に《move up》の形で使う。この意味では自動詞型なので、目的語はとらない。

- ◆ 物理的な「上方への移動」の延長線上で、それを抽象化して言ったもの。
- ◆ It's about time that ... (そろそろ～するときだ) に続く動詞は過去形ながら、基準時は現在。実際はそうならないけれど、「こうあってしかるべきではないか」と、現在の事実に対する期待を述べるので過去形が使われる。



□ age → **get 'on**

年を取る

▶ A: How's your father?

B: Of course, my father's **getting on** (=is aging), but he's still healthy.

A: お父様はいかが？

B: もちろん年を取っていますが、今も元気です。



常に《**get on**》の形で使う。自動詞型なので、目的語はとらない。

- ◆ on の基本イメージは「接点を保つ」ことで、ここでは時間軸との接点を保ちながら進行していく感じが伝わってくる。
- ◆ 「年を取る」という意味での **get on** は進行形で使い、**get on in years** のように **in years** を加えることもできる。



□ agree with → **go a'long with**

～に同調する、～を支持する

▶ I don't think I can **go along with** (=agree with) you.

お考えには賛成できかねます。



常に《**go along with** + 名詞 (句)》の形で使う。

- ◆ 最後の **with** は前置詞。① **with** ではなく、**along** のほうを強く発音する、② **with** の前に、I'm going along *quite happily* with the plan. (わたしは結構うれしい気持ちでこの計画に賛同している) のように、副詞 (句) を入れることができる、③ 目的語が代名詞の場合は、I'm going along with *this*. のように、代名詞は **with** のうしろに入れる。
- ◆ 「彼らの言うことがはったりだとわかってはいたけれど、ともかく調子を合わせておいた。そのほうが楽なので」と言いたければ、We knew they were bluffing, but we just played *along*. It's easier. となる。ここからわかると

おり, along には「受け入れる」というニュアンスがある。

150

□ alienate → put 'off

～を遠ざける, ～から敬遠される

- ▶ The bizarre TV commercial **put off** (=alienated) many customers.

その奇妙なテレビコマーシャルは、多くの客を遠ざけることになった。

OK

目的語が初出の場合は《**put off** + 目的語

, 目的語が既出の場合は《**put** + 目的語 + **off**》も可。目的語が代名詞の場合は必ず《**put** + 代名詞 + **off**》の形で使う。

- ◆ 基本的には字面どおり、「向こうのほうに」(off)「押しやる」(put) こと。そもそも off のイメージは「ある状態との断絶, 離断」であり, ここでの off も, 別段なんとも思っていなかった状態を「離れて」, きらいな状態に移行する感じが出ている。

150

□ alight → get 'off

降車する, 下車する

- ▶ Passengers **getting off** (=alighting) at the next station, please be aware that there is a bit of a step down from the train to the platform.

次の駅で下車されるみなさま, 電車とホームの間に段差がありますので, ご注意ください。

NG

常に《**get off**》の形で使う。この意味では自動詞型なので, 目的語はとらない。

- ◆ 場所の「移動」を言う get と, 「降りる」ことを示す off との組み合わせ。
- ◆ alight (～から降りる) はかなりフォーマルなので, 話し言葉では使わないが, 駅の案内放送などでは業務用語として普通に使われる。


E

□ eat all → polish 'off

～を食べ尽くす, 飲み尽くす

- ▶ The party guests **polished off** (=ate all) the food in 20 minutes.

パーティーの客たちは料理を 20 分でたいらげた。

 **OK** 目的語が初出の場合は《**polish off** +目的語》, 目的語が既出の場合は《**polish** +目的語+ **off**》も可。目的語が代名詞の場合は必ず《**polish** +代名詞+ **off**》の形で使う。


- ◆ ここでの off は、「借金を完済する」ときに言う pay off と同様, きれいさっぱり「片付ける」というニュアンス。

□ eat food in tiny portions → 'pick at

(料理を) つつつく

- ▶ We were almost full with the starters and ended up **picking at** our entrees (=eating our entrees in tiny portions).

オードブルでほとんど満腹になり, 結局, メイン料理はつつつく程度のことになってしまった。

 **NG** 常に《**pick at** +名詞(句)》の形で使う。

- ◆ ここでの at は前置詞。① 1 拍で発音するタイプなので, at ではなく, pick を強く発音する, ② at の前に, She **picked with a fork at** the food. (彼女はフォークで料理をつつつきながら食べた) のように, 副詞(句)を入れることができる, ③ 目的語が代名詞の場合は, pick at *it* のように, 代名詞は at のうしろに入れる。
- ◆ 「拾う, つまむ, つつつく」という意味の pick と, throw the ball **at** him (彼めがけてボールを投げつける) に見られる「標的・目標」を示す at との組み合わせ。

150
例

□ emerge → open 'up

登場する, 現れる

- ▶ A huge opportunity **is opening up** (=is emerging).

絶好のチャンスが現れつつある。



- ◆ 「症状が現れ始める」ことを symptoms are showing up と言うが、そこでの up 同様、何かが「起きる, 現れる」ということを強める up と、A new avenue has opened. (新たな道が開けた) と言うときの open との組み合わせ。

150
例

□ emerge → show 'up

(問題などが) 現れる

- ▶ The problems we were concerned about are starting to **show up** (=emerge).

心配していた問題が現れ始めている。



- ◆ 一語動詞 show だけでも「現れる」という意味を表すが、It came up in a conversation over lunch. (ランチの折の会話で話題にのぼった) での up 同様、「浮上してきた」感じのある up を付加して強調している。

□ emit → give 'off

~を発する, 排出する

- ▶ Diesel **gives off** (=emits) less CO₂ than petrol.

ディーゼルのほうが石油より二酸化炭素の排出量が少ない。



- ◆ 「放出する, 放散する」という意味の off は, 弾丸を「発射する」ときの fire off に通じるものがある。




□ emit → give 'out

(音などを) 出す

- ▶ The boiler **is giving out** (=is emitting) a high-pitched metallic sound. Better have it serviced.

ボイラーが甲高い金属音を出している。点検修理してもらおうほうがいい。

 **NG** 常に《give out +名詞(句)》の形で使う。


- ◆ 音や光などを「外部に出す」という意味の out は, ほかに The ship sent out a distress signal when the engine failed. (エンジンが故障したとき, 船は救難信号を発した) といった場合に使われる。

□ encounter → run 'into

(問題などに) ぶつかる

- ▶ Their business **has run into** (=has encountered) legal problems.

あの会社の事業が何か法律問題にぶつかっているらしい。

 **NG** 常に《run into +名詞(句)》の形で使う。


- ◆ ここでの into は前置詞。①2拍で発音するタイプなので, run はやや弱く, into を強めに発音する, ② into の前に, run again and again into (何度も~にぶつかる) のように, 副詞(句)を入れることができる, ③目的語が代名詞の場合は, run into it のように, 代名詞は into のあとに入れる。
- ◆ 「知り合いに偶然出くわす」ことを形容する bump into と同様, 行く手をふさぐものに急に「ぶつかる」というニュアンスを伝えている into。

□ encourage → egg 'on

～をそそのかす, けしかける

- ▶ **Egged on** (=Encouraged) by his friends, he knocked back three shots of vodka.

友人たちにそそのかされ, 彼はウォッカを一気に3杯飲み干した。

 **OK** たいていは《egg + 代名詞 + on》の形で使う。


- ◆ ここでの on は、「声援を送る」ときの cheer on や、「成功で勇気づけられる」という spurred on by success に見られる on と同じ。

□ encourage → urge 'on

～を励ます, 促す

- ▶ **Urged on** (=Encouraged) by major shareholders, management agreed to the merger.

大株主たちに促され, 経営陣は合併に同意した。

 **OK** 目的語が初出の場合は《urge on + 目的語》, 目的語が既出の場合は《urge + 目的語 + on》も可。目的語が代名詞の場合は必ず《urge + 代名詞 + on》の形で使う。

- ◆ この on は, *Come on! We don't want to miss the train.* (おいおい, 電車に遅れたらどうするんだよ) と人に行動を促したりするときに類出する come on と同じ。
- ◆ Urged on 以下の分詞句は, Management was urged on by major shareholders を短くしたもの。



□ end a telephone conversation with → **hang 'up on**

～との電話を（いきなり）切る

- ▶ She shouted something and **hung up on** (=ended the telephone conversation with) me.

彼女、何かわめいたと思ったら、電話を切っちゃったよ。



常に《**hang up on** + 名詞 (句)》の形で使う。

- ◆ 最後の on は前置詞。① on ではなく、up のほうを強く発音する、② on の前に、**hang up a few times on** (～を相手に何度も電話を切る) のように、副詞 (句) を入れることができる、③ 目的語が代名詞の場合は、**hang up on her** のように、代名詞は on のうしろに入れる。
- ◆ 「夫婦が別れる」ときの **split up** と同様、ここでの up は「断ち切る、分裂」というニュアンス。



□ end relationship with → **walk 'out on**

～と別れる、～との関係を断つ

- ▶ Jack found religion, and he totally changed. That's why Jill **walked out on** (=ended the relationship with) him.

ジャックは宗教に目覚め、まるで人が変わってしまった。ジルが彼との関係を断ったのはそれが理由だ。



常に《**walk out on** + 名詞 (句)》の形で使う。

- ◆ 最後の on は前置詞。① on ではなく、out のほうを強く発音する、② on の前に、**walk out without notice on** (予告もなく～に別れを告げる) のように、副詞 (句) を入れることができる、③ 目的語が代名詞の場合は、**walk out on him** のように、代名詞は on のうしろに入れる。

- ◆ ここでの **on** の基本イメージは「接触」で、**walk out on** は「接触を保っていた状態から外に踏み出す」ということ。
- ◆ この表現は「家を出る、家族を捨てる」(=abandon) という意味でも使い、「彼の母親はあるとき家を出て、それっきり帰ってこなかった」は *His mother walked out on her family one day and never returned.* となる。



□ enhance → bring 'out

～を引き立たせる, 引き出す

- ▶ Adding soy sauce **brings out** (=enhances) the flavor.

醤油を足すと、風味が引き立つ。



目的語が初出の場合は《**bring out** + 目的語

, 目的語が既出の場合は《**bring** + 目的語 + **out**》も可。目的語が代名詞の場合は必ず《**bring** + 代名詞 + **out**》の形で使う。

- ◆ 「来月 XYZ 社は新製品を発売する」を *Next month, XYZ Inc. is bringing out a new product.* と言うが、そこでの **out** と同様、この意味での **out** も「今までなかったものがあるようにする」というニュアンス。



□ enhance → follow 'up

～の効果を補強する, フォローする

- ▶ She always **follows up** (=enhances) sales visits with e-mails.

彼女はいつも営業訪問を E メールでフォローしている。



目的語が初出の場合は《**follow up** + 目的語

, 目的語が既出の場合は《**follow** + 目的語 + **up**》も可。目的語が代名詞の場合は必ず《**follow** + 代名詞 + **up**》の形で使う。

- ◆ 「～を追跡する」という意味の動詞 **follow** に、「完全に」終わらせることを強調する、**end up**, **finish up** などでの **up** を付加したもの。



句動詞索引

*は英米語データベース (COCA, BNC) の頻度上位 150 に含まれる最重要句動詞です。

■ A

- **abide by** → observe ~を順守する 136
- **account for** → explain ~を説明する 97
- **act up** → malfunction 不調である, 調子が悪い 131
- **add up** → tally つじつまが合う 209
- **add up to** → total 合計で~になる 211
- **adhere to** → follow ~を徹底的に順守する 104
- **allow for** → consider ~に配慮する, ~を織り込む 51
- **allude to** → (indirectly) refer to ~を暗に言う, ほのめかす 162
- **answer for** → take responsibility for ~の責任を取る 208
- **apply for** → request employment for (求人)に応募する 173

■ B

- **back down** → yield 譲歩する, 譲る 227
- **back up*** → block (交通を) 渋滞させる 36
 - confirm ~を証明する, 裏付ける 51
 - copy ~を複製する, ~のバックアップを取る 57
 - duplicate ~を複製する 79
- **blow up*** → enlarge ~を拡大する 86
 - erupt 勃発する 88
 - exaggerate ~をおおげさに言う 92
 - explode 激昂する, 激怒する 98
- **bottle up** → suppress ~を封じ込める, 抑える 205
- **break down*** → collapse (精神的に参って) 倒れる, つぶれる 45
 - separate ~を内訳で示す 186
 - stop working properly 故障する 198
- **break in** → force entry 侵入する, (無理に) 立ち入る 105
- **break off*** → detach はがれる, はがれ落ちる 64
 - discontinue 中断する, 物別れとなる 70
 - terminate ~を終了させる, 打ち切る, 解消する 210
- **break out*** → start (疫病などが突然に) 発生する 192
- **break out in a rash** → erupt with a rash じん麻疹が出る 89
- **break out of*** → escape from ~から脱する 89

- **break up*** → dissolve 解散する, 解消する 75
 - divide 分かれる 77
 - separate 離婚する, 別れる 186
- **bring about*** → cause ~をもたらす 41
- **bring back*** → evoke (記憶を) 呼び覚ます 91
- **bring down*** → reduce ~を減らす, 下げる 160
 - topple (政府を) 倒す 211
- **bring in*** → invite ~を招致する, ~に依頼する, ~を呼ぶ 119
- **bring out*** → enhance ~を引き立たせる, 引き出す 85
 - release ~を発売する 166
- **bring up*** → introduce (会議などで) ~を持ち出す, 話題として出す 118
 - raise (話を) 持ち出す, (上層部に話を) 上げる 152
 - raise ~を育てる 152
- **build up*** → develop ~を築き上げる 65
- **burn out** → exhaust oneself 過労で弱り果てる, 燃え尽きる 94
- **butter up** → flatter ~をおだてる 103

■ C

- **call around** → visit (ふらりと) 立ち寄る 219
- **call for** → necessitate ~を必要とする 134
- **call off** → cancel ~をキャンセルする 40
- **call out*** → shout 大声で呼びかける 187
 - summon ~を招集する, 出勤を命じる 204
- **carry on*** → chatter べちゃくちゃしゃべる 42
 - uphold ~を継承する, 受け継ぐ 218
- **carry on with*** → continue ~を続行する, 続ける 53
- **carry out*** → implement ~を実施する, 行う 114
- **catch up with*** → overtake ~に追いつく 140
- **(get) caught up in*** → (get) involved in ~に巻き込まれる 120
- **check in** → record one's arrival チェックインする 158
- **check out*** → (be) correct 確認が取れる, 裏付けが取れる 58
 - record one's departure チェックアウトする 159
- **check up on** → verify ~を確認する, 検証する 219



句動詞索引

(副詞・前置詞別)

*は英米語データベース (COCA, BNC) の頻度上位 150 に含まれる最重要句動詞です。

■ about

- bring about* → cause 41
- come about* → happen 111
- set about* → start 192

■ across

- come across as → appear 27
- get across → communicate 47

■ ahead

- go ahead* → proceed 145

■ along

- come along* → come 46
 - occur 137
 - progress 147
- get along → fare 99
 - (be) friendly 107
 - make progress 131
- go along* → progress 147
- go along with* → accompany 21
 - agree with 24

■ around

- call around → visit 219
- come around*
 - convert 57
 - regain consciousness 164
- go around* → (be) disseminated 74
 - (be) enough for all 87
 - socialize 188
- look around* → search 184
- show *sb* around → guide 110
- turn around* → restructure 176

■ aside

- put aside → ignore 113

■ at

- pick at → eat *food* in tiny portions 80
- work at → devote *oneself* to 66

■ away

- fritter away → waste 221
- make away with → steal 196
- put away → consume 52
- take away → subtract 201

■ back

- bring back* → evoke 91
- come back* → return 179
- get back* → retrieve 179
 - return 180
- give back* → return 180
- go back to* → started *in the past* 195
- hold back* → restrain 175
 - withhold 223
- hold back from* → refrain from 163
- look back on* → reflect on 162
- move back* →
 - return *sth* to *its* original position 181
- move back to* → return to 181
- pull back* → move backward 133
 - withdraw 222
- put back* → delay 60
 - postpone 143
- send back → return 180
- sit back* → remain inactive 167
- step back* → stop for a moment 197
- take back* → regain 163
 - retract 178
- take *sb* back to* → remind *sb* of 167

- **turn back***
 - retreat 178
 - reverse *one's* direction 182

■ by

- **abide by** → observe 136

■ down

- **back down** → yield 227
- **break down***
 - collapse 45
 - separate 186
 - stop working properly 198
- **bring down*** → reduce 160
 - topple 211
- **close down*** → discontinue 70
- **get down*** → descend 62
 - record 156
 - reduce 160
 - swallow 206
- **get sb down*** → depress 62
- **go down*** → digest 67
- **go down well*** →
(be well) received 154
- **hold down** → curb 58
- **lay down*** → stipulate 196
- **look down on*** → despise 63
- **put down*** → write 226
- **put sth down to sth*** →
attribute *sth* to *sth* 34
- **scale down** → reduce 161
- **set down*** → formulate 106
 - record 157

- **settle down*** → achieve stability 22
 - (become) calm 39
 - establish residence 90

- **shut down*** → close 44
 - disable 68
 - kill 124

- **sit down to*** → attend 32

- **slow down*** → relax 166

- **take down*** → dismantle 72
 - record 157
 - remove 169

- **turn down*** → lower the setting of 129
 - reject 165

- **weigh down** → burden 38

- **wind down** → downsize 78

- **wolf down** → devour 67

- **write down*** → record 158

■ for

- **account for** → explain 97
- **allow for** → consider 51
- **answer for** → take responsibility for 208
- **apply for** →
request employment for 173
- **call for** → necessitate 134
- **fish for** → seek indirectly 185
- **go for** → choose 43
- **make up for*** → compensate for 48

■ in

- **break in** → force entry 105
- **bring in*** → invite 119
- **check in** → record *one's* arrival 158
- **come in*** → finish 101
- **(be) engaged in** → follow 104



日向 清人 (ひなた・きよと)

慶應義塾大学大学院修了。12歳まで海外在住。
慶應義塾大学講師兼同大外国語教育研究所所員。
元ケンブリッジ大学英語検定面接委員。

著書に『即戦力がつく英文ライティング』『即戦力がつくビジネス英会話』『知られざる基本英単語のルール』(いずれもDHC刊)、『外資の社内英語ビジネスに効くパワフル動詞460』(共著 ジャパンタイムズ刊)、『ビギナーのための法律英語』(慶應義塾大学出版会)など、ビジネス英語、法律英語の著作多数。

英語学習者向けブログ「ビジネス英語雑記帳」

<http://eng.alc.co.jp/newsbiz/hinata/>

Twitter アカウント

@hinatakiyoto

©Kiyoto Hinata, 2013, Printed in Japan

英米語データベース最頻出の400表現

英語はもっと句動詞で話そう

2013年10月20日 初版第1刷発行

著者 日向 清人
制作 ツディブックス株式会社
発行者 田中 稔
発行所 株式会社 語研
〒101-0064
東京都千代田区猿樂町2-7-17
電話 03-3291-3986
ファクス 03-3291-6749
振替口座 00140-9-66728

印刷・製本 日経印刷株式会社

ISBN978-4-87615-273-5 C0082

書名 エイゴハモットクドウシデハナソウ

著者 ヒナタ キョト

著者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価はカバーに表示してあります。

乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。

株式会社 語研
語研ホームページ <http://www.goken-net.co.jp/>





英語はもっと句動詞で話そう

ためし読みはここまでです。

Webページへ

